

「医師臨床研修制度に関する調査」報告書（概要）

1. 調査目的 医療を取り巻く状況が大きく変化する中で、平成16年度より実施された新医師臨床研修制度が3年目を迎え、当協会会員病院における臨床研修への参加状況と意識の実態を把握する目的で調査を行った。
2. 調査対象 218病院（臨床研修指定有病院）
200病院（臨床研修指定無病院 ※）
3. 回答数 151病院（69.27%）（臨床研修指定有病院）
106病院（53.00%）（臨床研修指定無病院 ※）
※研修協力施設のリストは公開されていないため、上記「臨床研修指定無」病院には研修協力施設が含まれている。
4. 調査方法 調査票を各病院に郵送
5. 調査期間 平成18年2月27日（月）～平成18年4月19日（水）
6. 集計方法 全数での集計以外に、臨床研修制度参加病院（「参加病院」）、臨床研修非参加病院（「非参加病院」）毎に集計を行った。
7. 調査結果の概要
 - (1) 医師確保の状況について
 - 派遣医師の引き上げについて、「引き上げあり」と回答したのは全体で101件（39.8%）であった。そのうち「参加病院」は77件（42.1%）、「非参加病院」は24件（32.4%）と臨床研修制度に参加している病院の方が医師の引き上げが行われた割合が若干高くなっていた。（報告書 P.4）
 - 病院が感じる医師数の充足感（業務量と比較しての充足感）については、「不足感がある」と回答したのは全体で203件（79.8%）であった。そのうち「参加病院」は157件（85.8%）、「非参加病院」は46件（62.2%）と臨床研修参加病院の方が医師の不足感が強い傾向があった。（報告書 P.4）
 - 日直（土曜、日曜、祭日の昼間）の医師の応援状況として、「応援が容易にされていない」と回答したのは全体で100件（38.9%）と約4割であった。「参加病院」は71件（38.8%）、「非参加病院」は29件（39.2%）と臨床研修参加・非参加による差は見られなかった。（報告書 P.5）
 - 医師の確保における大学からの応援状況としては、「期待される」と回答したのは全体で29件（11.3%）であり、その内訳をみると「参加病院」の方が「非参加病院」よりも大学からの医師派遣が期待できる割合が高い。しかし、半数以上の病院が大学からの応援は期待できないと回答している（134件（52.1%））。（報告書 P.7）

(2) 臨床研修への参加状況について

○臨床研修制度に参加している病院の参加形態としては、単独型での参加 9 件 (3.8%)、管理型 75 件 (31.9%)、協力型 118 件 (50.2%)、研修協力施設 33 件 (14.0%) と協力型による参加の割合が特に多かった。(報告書 P.7)

○臨床研修制度非参加病院の今後の参加希望状況は、「参加したい」が 31 件 (41.9%)、「参加したくない」が 43 件 (58.1%) であった。「参加したい」と回答した病院が希望する参加形態としては「研修協力施設」が 19 件 (54.3%) と最も多かった。(報告書 P.8)

(3) 医師臨床研修制度の見直しについて

○医師臨床研修制度の見直し項目については、「参加病院」では「研修医受け入れに対する補助金の増額」が 107 件 (64.5%)、「非参加病院」では「夜間・休日など研修医の勤務についての再検討」が 32 件 (60.4%) と一番多く、「参加病院」では補助金の増額に強い要望があり、「非参加病院」では当直・日直なども果たせる労働力としての研修医を望んでいた。(報告書 P.8)

(4) 医師臨床研修制度の問題点 (代表的な意見)

○臨床研修制度に数多くの病院、特に民間病院、中小病院が参加するための改善すべき点について、下記の意見があった。(報告書 P.10~12)

(参加病院の意見)

- ・臨床研修に参加するためのハードルが高すぎる。
- ・産婦人科、小児科、精神科の指導医の確保が困難である。
- ・臨床研修への参加は病院側に何のメリットもなく、ボランティアに近い状態である。
- ・補助金の増額が必要。
- ・将来の専門医の取得を考えると、中小病院は選ばれない。
- ・スタッフの少ない中小病院の参加は不可能。
- ・現在の地域医療の研修は開業医と施設に偏っているため、民間の中小病院のローテーションを入れてはどうか？

(非参加病院の意見)

- ・臨床研修参加のハードルが高すぎる。
- ・病院全体でなく、診療科によって充実しているところだけでも協力型として参加できるとよい。

(5) 初期研修医が病院に与える影響について

○初期研修医の受け入れ人数は、「1~5人」が 60.8%と最も多かった。(報告書 P.13)

○初期研修医を受け入れたことによる変化の設問では、「病院に活気が出てきた」と回答した病院が 83 件 (69.2%) と約 7 割あった。(報告書 P.13)

○1年目の初期研修医を受け入れたことによる医療機関のスタッフの負担状況に

- については、「かえって増加した」が約5割となっている。(報告書 P.14)
- 2年目の初期研修医を受け入れたことによる医療機関のスタッフの負担状況については、「軽減された」が36件(31.9%)、「変わらない」が38件(33.6%)と2年目の研修医は労働力として一定の評価を得ている。(報告書 P.14)
- 研修医を受け入れたことによる病院の満足度は、「満足している」が86件(72.3%)と約7割の病院が満足している。(報告書 P.15)

8. 総括

医療を取り巻く状況が大きく変化する中で平成16年度より実施された新医師臨床研修制度3年目を迎え、当協会会員病院における臨床研修への参加状況と意識の実態を把握する目的で調査を行った。

本調査は、会員病院のうち臨床研修指定有病院218、指定無病院200に対して平成18年2月、アンケート方式で行い、回答率はそれぞれ指定有が69%、指定無が53%であった。

結果からは、300床以上の病院はほとんど参加しており、病床数の少ない病院ほど参加が少なく、研修を受け入れた病院の約7割は今回の研修制度に満足しており、3割の研修医が研修終了後もその病院に残っている、などの状況が明らかとなった。

また、医師確保については「大学からの医師派遣が期待できる」と回答したのは約1割であり、大多数の病院が派遣は困難だと感じていることが明らかとなった。

会員病院の臨床研修への参加形態としては、単独型9(3.8%)、管理型75(31.9%)、協力型118(50.2%)、協力施設33(14.0%)であった。現在、臨床研修に参加していない病院のうち42%が今後参加したいと考えており、そのうち54%は協力施設としての参加を希望している。

本制度の見直しに関する要望では、○補助金の増額もしくは公平性、○研修医の勤務条件、○診療報酬上の評価が独立型・管理型・協力型に限定されている点の改善、などがあった。

特に中小病院においては、医師臨床研修の理念、内容、参加手続等に関する理解が、まだ不十分であると考えられ、今後当協会としては、中小病院が臨床研修に参加しやすくするために制度面における改善要望を行うとともに、会員病院に対して臨床研修制度の周知にさらに積極的に取り組んでゆく必要があると考えられる。

以上